

新入生のボランティア意識－「新入生ボランティア活動アンケート」から

1.調査の目的と概要

ボランティアセンターでは、毎年4月新入生オリエンテーションの際に、ボランティア活動に関するアンケートを行ってきている。新入生のボランティアへの意識や活動の意向を明らかにし、センターが取り組むべき課題についての情報とすることを目的としている。2001年度に開始した全新入生を対象としたこの調査は、本年度で8回目を迎えた。年度ごとに多少の見直しはあるものの、基本的には同じ質問内容を踏襲してきている。調査結果は各年度の報告書で公開されているが、その他、外部団体などにもボランティア募集をする際の情報として提供されるなど、活用されてきた。

2008年度は、新入生2,653名から回答を得ることができた。

調査概要は以下のとおりである。

調査対象者 明治学院大学 2008年度 1年生

調査時期 2008年4月2日～9日

調査方法 各学部新入生オリエンテーションでアンケート用紙を配布し、その場で回収した。

調査結果 総数 2,653名

文学部（英文学科 292名、フランス文学科 94名、芸術学科 121名）

経済学部（経済学科 264名、経営学科 134名、国際経営学科 133名）

社会学部（社会学科 148名、社会福祉学科 247名）

法学部（法律学科 259名、政治学科 132名、消費情報環境法学科 151名）

国際学部（国際学科 295名）

心理学部（心理学科 309名）

不明 74名

調査項目

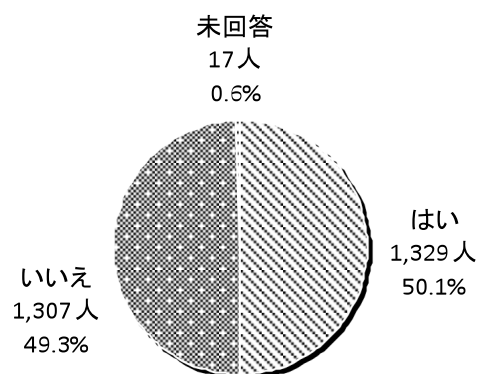
- ・大学入学以前のボランティア活動経験について
- ・大学時代にボランティア活動に参加したいか
- ・関心のある活動領域
- ・ボランティア活動に参加しようと思わない理由
- ・ボランティア活動に対する懸念
- ・ボランティアセンターの認知度など

1. 調査結果

(1) 大学以前のボランティア活動経験について

「これまでにボランティア活動に参加したことがありますか」【図1】という質問に対して、「はい」が50.1%、「いいえ」が49.3%であった。結果から、半数の新生は大学入学前に、何らかのボランティア活動に参加経験があるということがわかる。2006年度が「はい」30.5%、2007年度が48.3%であったことと比較するとボランティア活動経験のある新生が漸増していることがわかる。(ただし、2006年度は中学、高校などで行事として実施されたボランティア活動は除外し、自発的に関わった体験のみについて尋ねている)

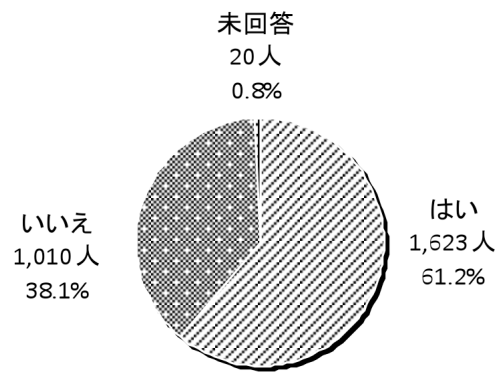
【図1】 これまでにボランティア活動に参加したことはありますか？



(2) 大学時代にボランティア活動に参加したいか

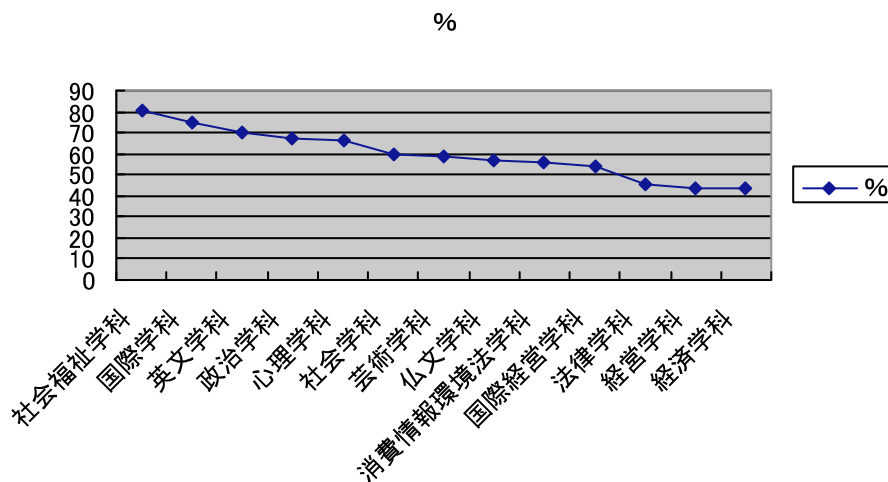
「大学時代にボランティア活動に参加したいとおもいますか」【図2】という質問に対して、「はい」が61.2%、「いいえ」が38.1%だった。2006年度60.4%、2007年度56.3%であり、活動したいと考えている新生の割合は、例年と比較するとやや高いという結果であった。

【図2】 大学時代にボランティア活動に参加したいと思いますか？



次に学科別に「大学時代にボランティア活動に参加したい」と回答した学生の割合を示したのが【図3】【表1】である。

【図3】 大学時代にボランティア活動に参加したいか（学科別）



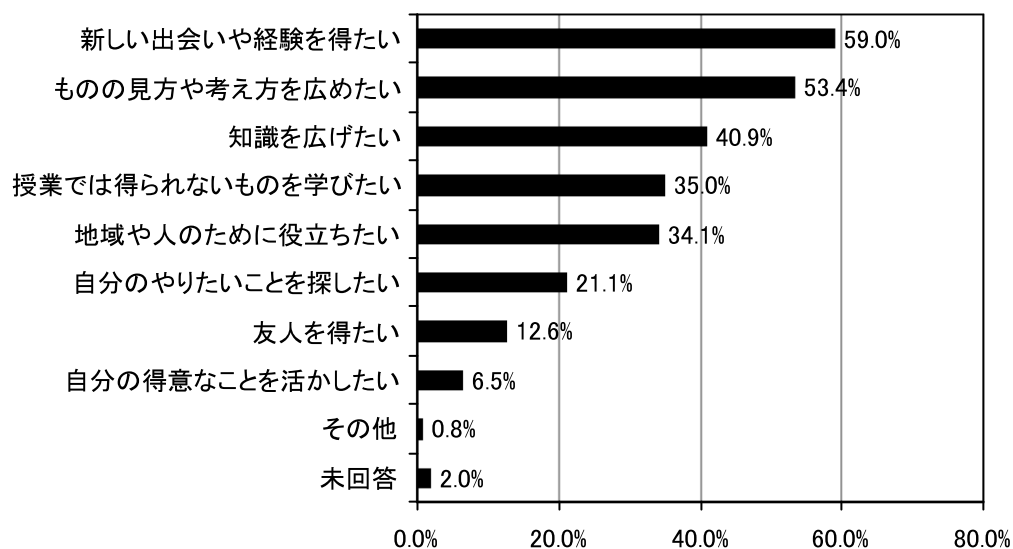
【表1】 大学時代にボランティア活動に参加したいか（学科別）

社会福祉学科	80.2	仏文学科	56.4
国際学科	75.3	消費情報環境法学科	55.6
英文学科	69.9	国際経営学科	54.1
政治学科	67.4	法律学科	45.2
心理学科	66.3	経営学科	44
社会学科	60.1	経済学科	43.2
芸術学科	58.7		

参加したいとする学生の割合が最も高いのが、昨年度（86.3%）と同様に社会福祉学科であり、例年ボランティア活動参加に高い意欲を示している。次に、国際学科（75.3%）も昨年度（75.2%）と同様に高い結果となっている。一方、英文学科が69.9%と次に高くなっているが、これは昨年度の59.0%と比較するとかなりの増加を示している。同様に、政治学科が67.4%（昨年度52.9%）、芸術学科58.7%（昨年度46.5%）と例年よりかなり高い割合となっている。昨年度最下位であった経営学科でも、今年度は44.0%（昨年度32.8%）と希望割合が増加した。半数以上の学生が大学時代のボランティア活動経験を希望しているのが10学科となっており、昨年度は7学科と半分の学科に留まっていたのと比較すると、全体的に学部学科の枠を超えて、大学時代にボランティア活動を体験したいと考える学生層が増えていることとなる。しかし一方で昨年度と比較すると、心理学科では66.3%（昨年度75.2%）と希望する学生の割合が減少している。

「大学時代にボランティア活動に参加したい」と回答した学生に対し、「ボランティア活動に参加したい理由（複数回答）」【図4】を尋ねた。理由として挙げられているのは、「新しい人と出会いたい」（59.0%）「ものの見方や考え方を広めたい」（53.4%）という回答が多かった。ついで、「知識を広げたい」（40.9%）「授業では得られないものを学びたい」（35.0%）、「地域や人のために役立ちたい」（34.1%）という回答になっている。これは昨年度と比較して、理由順位、割合ともほぼ同様な結果であった。

【図4】 ボランティア活動に参加したい理由（複数回答）



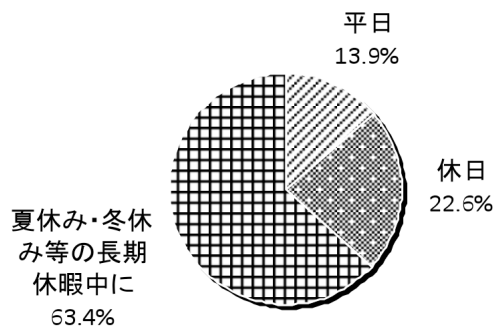
次に参加したいと回答した学生に対し、希望するボランティア活動のスタイルを尋ねた。活動日【図5】に関しては、最も多いのが「夏休み、冬休みなどの長期休暇中に」で6割となった。ついで「休日」（22.6%）、そして最後に「平日」（13.9%）となっている。これも例年同様の結果であり、時間が十分にとれる長期休暇中に活動に参加したいとする学生が大半であり、一方「平日」に大学の講義やアルバイト

トなどと平行して活動を希望する学生は、全体の1割程度にとどまっている。学生に対してのボランティア情報などでは、休日などに行われるイベント的なプログラムと同様に、普段の生活上での継続的なボランティア活動への要請も多く、学生のニーズとのマッチングが課題となると思われる。

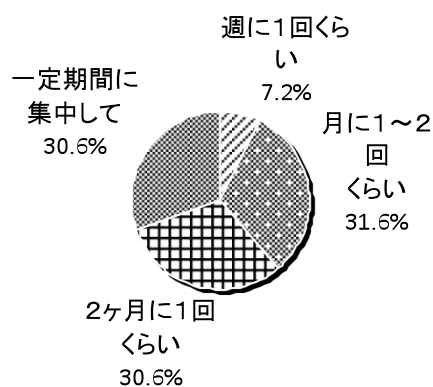
頻度【図7】に関しては、「月に1～2回」(31.6%)、「2ヶ月に1回程度」(30.6%)。「一定期間に集中して」(30.6%)とほぼ同じ割合となっている。一方で「週に1回くらい」(7.2%)と頻度の高い活動を希望する割合は低いもの、昨年度(5.8%)と比較するとわずかではあるが増加している。

活動内容については、「いろいろな活動に挑戦していきたい」(83.7%)が高く、「一つの活動を続けていきたい」(15.7%)に大きく差をつけている。この傾向は昨年度とほぼ同様であり、変化はない。

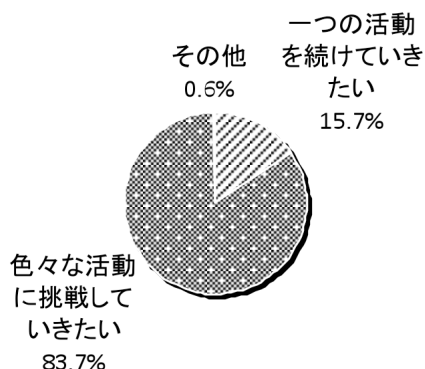
【図5】希望する活動日



【図6】希望する頻度

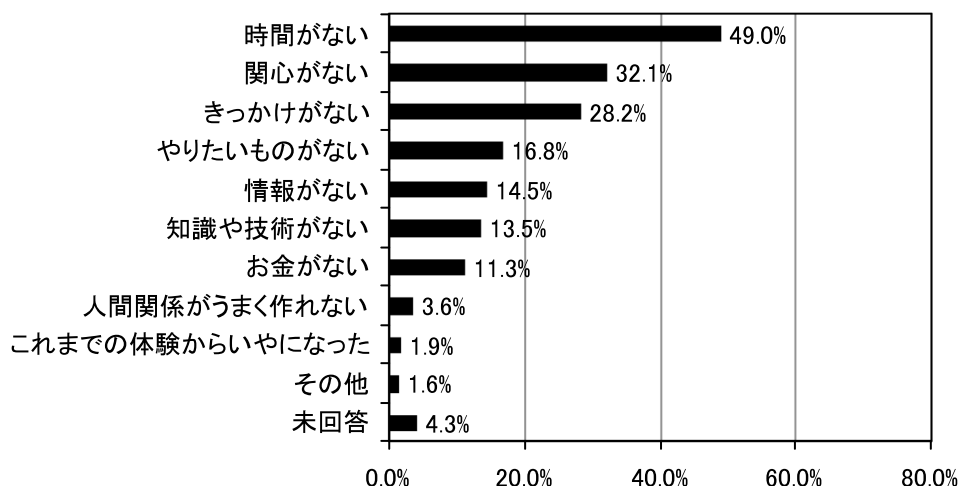


【図】 希望する活動形態



一方、大学時代にボランティア活動に参加したいとは思わないとした学生に対し、その理由を尋ねた【図8】（複数回答）。第一位が「時間がない」（49.5%）第二位「関心がない」（32.1%）、第三位「きっかけがない」（28.2%）だった。ついで「やりたいものがない」（16.8%）、「情報がない」（14.5%）、「知識や技術がない」（13.5%）「お金がない」（11.3%）となっている。この活動阻害要因の順位は、この数年ほぼ同順位、同割合で変動がない。講義やアルバイトなどの時間的な制約があって、ボランティア活動に充てる時間がないと感じている学生が多い。今年度の調査結果では、すでに半数以上の新生が入学前に活動体験をしているということであるが、「これまでの体験からいやになった」（1.9%）という回答は昨年度（2.1%）とほぼ同じ割合であり、かつ低い回答であったことから、入学前のボランティア体験が主たる阻害要因にはなっていないことがわかった。

【図8】 ボランティア活動に参加したいとは思わない理由

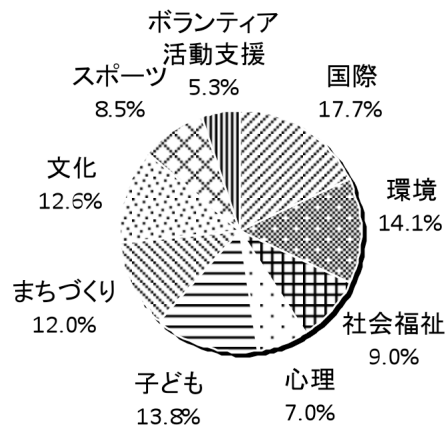


(3) 関心があるボランティア活動について

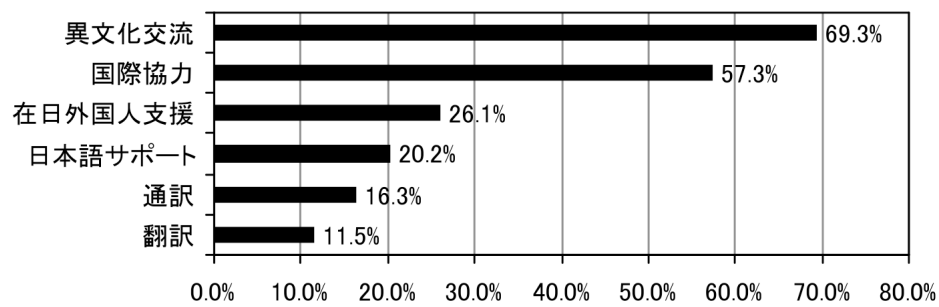
「関心があるボランティア活動分野」(複数回答)【図9】を尋ねたところ、「国際」(17.7%)が最も多く、「環境」(14.1%)、「子ども」(13.8%)、「文化」(12.6%)、「まちづくり」(12.0%)、「社会福祉」(9.0%)、「スポーツ」(8.5%)「心理」(7.0%)、「ボランティア活動支援」(5.3%)の順となっている。この順位、割合についても、2007年度とほぼ同様の結果であるが、2007年度に「環境」が第2位に浮上し、今年度も高い希望結果であったことから、「環境」ボランティア活動への関心の高まりが定着してきたことが伺える。それぞれの領域のさらに関心のある活動について、分野ごとの希望者にさらに尋ねた。以下【図10】～【図12】は希望の高かった「国際」「環境」「子ども」領域の具体的な活動内容を示したものである。これをみると、「国際」領域では、「異文化交流」「国際協力」活動がいずれも半数以上が希望しており、関心の高さが伺えた。また、「環境」領域では、「ゴミ・リサイクル」「地球温暖化」「動物保護」「森林保護」がいずれも3～4割の割合となった。「子ども」領域では、「保育園・赤ちゃん」が6割を超え、ついで「放課後活動」「キャンプ・宿泊行事」の順となっている。これら人気のある3領域の具体的な活動分野希望は、昨年、一昨年度とほとんど変化がない。

その他の領域についてみると、「文化」領域では、「音楽」(66.5%)、「映画」(41.6%)が高く、「歴史」(23.3%)、「食」(20.0%)、「演劇」(16.0%)の順で、「科学」(3.8%)が低い。これは理科系の学科が本学では存在しないことが大きいと考えられる。「まちづくり」領域では、「祭り・イベント」(78.8%)と希望が突出しており、「地域おこし」(17.7%)、「災害」(17.0%)、「子育て支援」(12.8%)、街並み保全(7.0%)となっている。「社会福祉」領域では、「障がい児・者支援」(48.2%)、「高齢者支援」(44.2%)、「病院ボランティア」(39.7%)の関心が高く、「路上生活者支援」(13.2%)、「自助グループ支援」(8.5%)という結果であった。「スポーツ」領域では、「スポーツサポート」(49.7%)、「スポーツ指導」(46.9%)「大会運営」(38.7%)であった。「心理」領域は、「不登校児童・生徒支援」(66.1%)「メンタルフレンド」(58.4%)といずれも半数以上が関心を持っていた。「ボランティア活動支援」では、「企画・広報」(51.9%)の人气が高く、ついで「事務補助」(29.9%)、「人材育成」(18.2%)、「ボランティアコーディネート」(14.7%)、ホームページ管理(14.3%)、「政策提言」(9.7%)、「資金調達」(8.5%)となった。こういった領域ごとの細部の活動希望分野についても、この数年の傾向に変化はみられない。

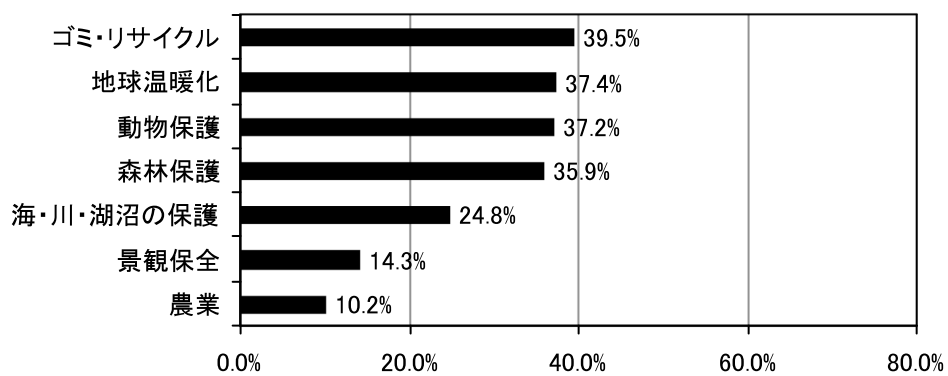
【図9】 どのようなボランティア活動に関心がありますか？



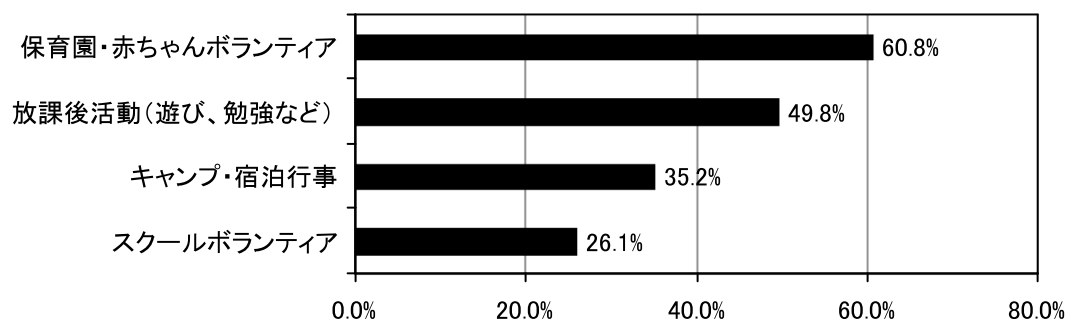
【図10】 国際の希望分野（希望者に複数回答）



【図11】 「環境」の希望分野



【図12】「子ども」の希望分野



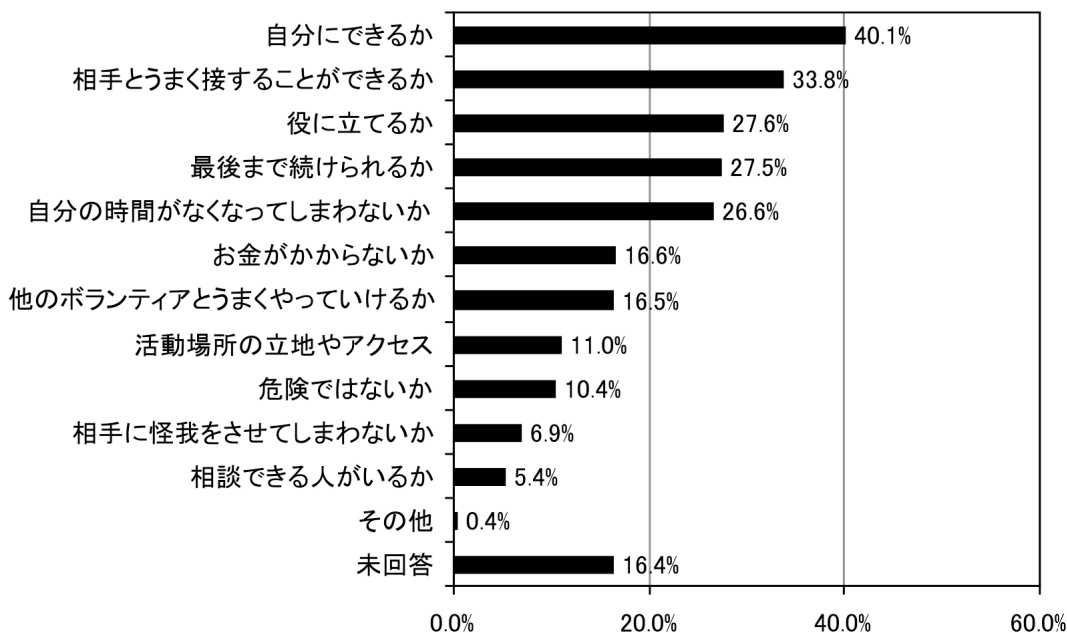
(4) ボランティア活動に対する懸念

「ボランティア活動を始めようとするとき、主に心配なことは何ですか」(複数回答)【図13】では、「自分にできるか」(40.1%)が最も高く、ついで「相手とうまく接することができるか」(33.8%)、「役に立てるか」(27.6%)、「最後まで続けられるか」(27.5%)、「自分の時間がなくなってしまわないか」(26.6%)の順で比較的高い割合を示している。この順位や割合もほぼ例年と同様であるが、一方で「他のボランティアの人達とうまくやっていけるか」(昨年度13.9%)、「危険ではないか」(昨年度7.5%)が、若干割合として増えているが今年度の特徴といえる。

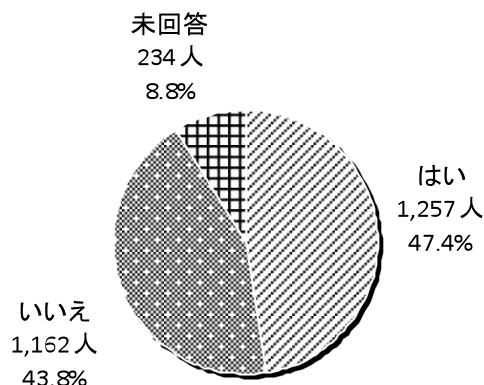
(5) ボランティアセンターの認知度

最後に「明治学院大学にはボランティアセンターがあることを知っていましたか」【図14】に関しては、「はい」と回答したのは47.4%、「いいえ」が43.8%。「未回答」8.8%という結果となった。「はい」という回答をした新生生の割合の変化をみると、2005年度41.6%、2006年度42.3%、2007年度68.0%となっており、昨年度急激に認知度が上昇した結果と比較すると、今年度はやや認知度が下がっている結果となった。この要因については、今回の調査結果ではこれ以上の分析は不可能であるが、オープンキャンパスや入学案内などでの情報提供が2007年度と比較して十分でなかったのかもしれない。

【図13】 ボランティア活動を始めようとするときの懸念



【図14】 明治学院大学にはボランティアセンターがあることを知っているか？



2. 調査結果に対する考察

以上、今年度の調査結果から明らかになった点について考察を加えたい。

今年度の調査結果から、2008年度生の半数以上が入学前にボランティア活動経験を有していることが明らかとなっている。この数値は、昨年度から急激に高くなっているが、その理由としてそれ以前の調査項目にあった「自発的なボランティア体験」といった文言を外したことにより、学校などで行事や授業の一環として行われる義務的なボランティア体験も含まれるようになったことが大きいと思われる。こういった半ば強制的なボランティア体験が、大学入学後のボランティア活動の志向性にどのような影響を与えているのかは、より詳細な調査結果の分析が必要となるが、昨年よりも大学時代にボランティ

ア活動を希望する割合が高かったこと、またボランティア活動を希望しない理由としてあげている「これまでの体験からいやになった」という項目の回答割合はかなり低いことから、活動阻害要因とはなっていないのではないかと思われた。

ボランティア活動に参加したい理由としては、新しい出会いや経験、知見を広げたいという「自己啓発的」な動機が例年と同様に高い。また同様に「地域や人のために役に立ちたい」という「社会貢献的」な動機も比較的高く、また「自分のやりたいことを探す」「友人を得たい」といった「自己実現的」動機も存在する。新入生のボランティア活動に対しての志向性には多様な要素が含まれており、ボランティアセンターとしても、こういった学生の活動に求める多様な要素を勘案して、活動プログラムの紹介や情報発信をしていく必要がある。

次に具体的なボランティア活動領域については、例年通り「国際」「環境」領域への関心が高く、その中でも「異文化交流」「国際協力」活動が高い。国際領域の「在日外国人サポート」「日本語サポート」「通訳・翻訳」などと比較すると、先の二つの活動は多義的であり、イメージとして学生が志向している観もある。こういった「なんとなく国際交流や協力のボランティア活動してみたい」という新入生のイメージをどう具体的なボランティア活動につなげていけるのか、これもセンターの課題であると思われた。学生の希望する活動スタイルをみると、例年と同様に長期休暇期間に集中して活動したいというニーズが高い。他の活動と両立を望み、短期集中型あるいは「二ヶ月に1回くらい」のゆるやかな頻度での活動スタイルを望む学生が多いことがわかる。一方で「平日」に「週に1回」もしくは「月に1～2回」程度の頻度で「一つの活動を続けていきたい」と、自らの日常生活にボランティア活動を定期的に位置づけて実践していくスタイルを希望する学生も1割以上いることも注目したい。大学に寄せられるボランティア情報の中には、定期的に日常活動への学生参加を希望するプログラムも多いことから、こういった日常的活動にかかわりたいと考えている新入生のニーズとのマッチングをより効果的おすすめの方策に考えていく必要があるだろう。

一方、ボランティア活動を希望しない約4割の学生については、その理由は例年どおり「時間がない」「関心がない」「きっかけがない」であった。これについては、例えばセンターがとりくんでいるペットボトルのキャップ回収活動や、キャンパス周辺環境整備など時間をとられずに身近に参加できる活動を紹介したり、より彼らの関心に引き寄せた幅広いボランティア活動プログラムの紹介をするなどの無関心層に働きかける支援がセンターに求められていると思われた。

最後に今年度は昨年度と比較して、入学生のボランティアセンターの認知度が低い結果となった。この理由については詳細な分析が必要であるが、ホームページの充実など広報活動の強化が求められている。また入学後の学生への認知度を高め、一人でも多くのボランティア活動に関心をもつ学生にとって有意義なセンターであるように支援体制を整備する必要があるだろう。

(茨木)